区分	臨床・専門基礎分野	授業科目名	公衆衛生学	単位数	1単位
対象学年	1年	開講時期	(前期)・後期・通年	講義形態	(講義)・実習
担当教員名	管原　正志	実務経験	有・(無)	実務経験内容	

授業の目的・目標

公衆衛生学は、個人を対象とした基礎科学、公衆衛生学は公衆への応用科学ととらえ、個人及び公衆の健康の保持と増進を目指す総合科学であり、本科目により次のことを理解し説明することができる。①衛生学の知識を日常生活の中で活用できる。②身近な生活環境と健康、疾病予防などの基礎的な知識を学び、考える視点を養う。③行政の仕組みとして老齢化・年金・福祉などの制度を知る。

成績評価の方法

定期試験80%、授業時の小テスト20%

授業の概要・授業方針

私たちが生きている周りの身近な環境を視る目線を養う。そのために予防医学の知識、環境保全に必要な処理・対策の基礎的な知識、労働衛生・衛生管理の基礎的な知識、少子高齢化社会での保健医療、社会福祉・社会保障の制度を学ぶ。講義を中心として、グループワーク等を行うと共に、必要に応じて視聴覚教材（ICT活用等）を使用する。

テキスト・参考資料等

「最新臨床検査講座、公衆衛生学」照屋浩司・川村堅著、医歯薬出版

授業計画	講師
第1回：総論、予防医学、疫学調査、スクリーニング	管原正志
第2回：人口（世界人口、日本人口）	管原正志
第3回：感染症の疫学（3大要因の解説）	管原正志
第4回：感受性、免疫、感染症法、消毒	管原正志
第5回：主要伝染病（各論）	管原正志
第6回：母子保健、老人保健	管原正志
第7回：学校保健、精神保健	管原正志
第8回：生活環境、飲料水	管原正志
第9回：下水処理、廃棄物	管原正志
第10回：屋内環境、空気環境、温熱環境	管原正志
注：受講に関して、時間毎の予習・復習を習慣化すること。	